

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 5 月 17 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491900134		
法人名	特定非営利活動法人 元気むらさくぎ		
事業所名	グループホームさくぎ		
所在地	広島県作木町下作木739番1 (電話) 0824-55-3326		
自己評価作成日	平成27年4月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3491900134-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3491900134-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年5月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用される皆様が馴染みの方たちと地域の中で触れ合いながら、「共に喜び、共に笑顔を、やすらぎの中で」の理念の基、安心して安全な生活が送れるよう支援していきます。ご家族とはコミュニケーションを密に図って訪問しやすく相談しやすい関係作り、地域の方には散歩の途中など見かけたときには必ず挨拶をすることや事業所の行事に招待するなどして日頃から気軽に訪問しやすい関係作りに努めています。開設して5年になりますが少しずつその目標に近づいていると思います。今後も利用者一人ひとりに応じたアクティビティを実施し出来るだけ自立した、又張り合いや、楽しみのある生活が送れる施設を目指して頑張っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「共に喜び、共に笑顔を、やすらぎの中で」の理念の下に、利用者が安心して安全に生活できるように、また利用者のペースで過ごせるように職員は見守っている。また、利用者が不穏な状態の時には外出をして気持ちを落ち着かせるように努めている。利用者はこの地域に生活していた方が多く、地域の行事に参加することで知人との交流を深めている。また、地域住民はホームの除草を行ったり、運動会のテント設置を手伝い、春には桜の花を差し入れたりと非常に協力的である。また、事業所近辺の道路の除草を職員が行うことで地域に貢献し、夏には「納涼祭」を開催し、近隣住民と交流している。母体法人は、花見やもみじ狩りには、車や運転手を提供し、法人が経営するレストランで外食を楽しむこともある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は常時事務所内に掲げおり毎月開催している職員会議で唱和するようにしているが、毎回は出来ていない。しかし共有、実践は出来ていると思う。	理念「共に喜び、共に笑顔を、やすらぎの中で」を記した印刷物を職員に配布し、職員会議で唱和している。また、管理者は理念について職員に説明している。	職員に理念の印刷物は配布しているが、十分に理解し実践されていないようである。今後は、理念に沿った年間行動目標を皆で作成し、年度末には達成度を評価し理念の定着に努めることを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方が自分の家で使用した除草剤が余ったからと、事業所の庭に散布して下さったり、隣の中学校の運動会で専用のテントを準備して下さったりと地域との交流が確立している。	近隣住民がホームの除草や運動会のテント設置に協力し、ホームの職員は近辺道路の除草を行い、地域に貢献している。中学校の文化祭やふるさと祭りなどの地域行事に参加し、住民と交流している。なお、ホーム主催の「納涼祭」には近隣住民を招待し、利用者との交流を行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の施設であることは十分に認識いただいていると思うが、現段階では地域貢献はまだ不十分である。施設周辺道路の除草剤等、自分たちで出来ることの協力を続けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行政、地域包括支援センター、特別養護老人ホーム、民生委員協議会、自治連、家族代表の参加を得て定期的に開催しており、会議で出された意見を生かすようにしている。	行政担当者や地域住民、家族が参加しホームの運営に関する質疑応答や活発な意見交換が行なわれている。出席者の提案により、地域の消防団が避難訓練に参加するようになった。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	当事業所は市の指定管理施設であり市の担当者とは事あるごとに連携をとって助言、指導を仰いでいる。	市の指定管理施設であるので、市の担当者とは、設備や医療支援などに関する相談を行い支援してもらっている。また、利用者の介護に関する相談に関しても、担当者と連携して問題を解決している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠は出来るだけ行わないことを前提として、家に帰りたくと玄関を開ける利用者には、一緒に施設周りを歩いたり、近くの墓にお参りに行く等の対応をしている。又毎月の職員会議で、各利用者さんに対する対応方法について意見交換をしている。</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルを作成し、それに基づいて対応している。しかし、頻りに施設から出られることを試みる利用者の安全確保の為に、家族に状況を説明し承諾を得て居室に施錠をしている。</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルはあるが、職員研修は今のところ実施されていない。今後は、言葉による行動抑制など、広義の身体拘束も含めて「身体拘束に関する職員研修」を行い、身体拘束しないケアに取り組んでいただきたい。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>毎月の職員会議や日々の介護の中で、声の掛け方等にも気をつけるようにしている。利用者さんの僅かな内出血等も必ず介護記録に記載し、管理者にも口頭で報告している。管理者は必ず確認している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>最近まで後見人制度を利用しておられる利用者さんがおられたので、職員全員が身近な制度として理解出来ているが、活用には至って居らず学ぶ機会もない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には家族に十分説明を行っている。又、改定時には改定前と改定後が理解できるよう文書を作成して、説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置「家族の集い」時に参加家族全員と代表者、管理者とで意見を聞く場を設け、皆さんより意見を頂いている。</p>	<p>年に1回、「家族の集い」を開催し、事業所の運営状況の説明を行い、家族と意見交換を行なっている。また、敬老会の週には、家族に食事を試食してもらい、意見を聞いている。家族からの要望で、現在3ヶ月に1回の利用者状況報告書を毎月行なうように検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>代表者以下、全職員が参加する職員会議を毎月1回開催し、職員の意見や提案を聞いている。玄関ドアのセンサー設置の意見があり、採り入れられた。</p>	<p>毎月の職員会議で職員の意見・要望を聴いている。職員の要望により、玄関ドアのセンサー設置や利用者の安全確保の為に、夜間利用しない時間帯にリビングのドアを施錠するようにした。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は法人の理事でもあることから各職員の実績や勤務状況を把握しており、非常勤職員から正規職員への転換など、やりがいや働きやすい環境作りに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>資格取得の為に勤務変更や、費用の全額負担等の支援を行っている。又、全職員に順次認知症介護実践研修を受講させ、資質の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>備北地域で創設された「びほくいいききネット」に参加しているので、今後は活用したい。</p>		
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入所相談や申し込み、見学に来られた際に本人様の思いなどを、本人が話しやすいようにゆっくりと大きな声で話しかけてお聞きしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入所相談や申し込み、見学に来られた際に、本人様がどのような状態なのか等出来れば本人様には他の場所でお茶を飲んだりして頂いている間に、話しやすい環境を作りながらお聞きしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談に来られ、お話を伺った段階で当事業所以外のサービスが必要と判断した時は、助言を行っている。実際に他のサービスを勧めたことがある。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>家庭での生活と同様に過ごしていただくと考え、自分で出来ることは自分でして頂くようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族に対して定期的に行う利用者の状況報告や随時の電話での報告等、情報交換を行い共に本人を支える関係が築けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>面会に来られればコーヒー等の飲み物を必ずお出しして居室でゆっくり過ごしていただいている。保育園、小学校、中学校の合同運動会へ参加して、知り合いとの交流を図っている。</p>	<p>ホームの利用者はこの地域出身者が多いので、地域住民が集まる行事には出来るだけ参加し、知り合いと話す機会を設けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が利用者さんの間に入って話を進めたり、出来るだけ全員で同じテーブルで同じ話題で話が出来るように、係わっている。又気の合わない利用者さん同士は、同じテーブルで食事をしないような配慮も行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所時には、関係者に情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや意向の把握が困難なこともあるが、日々の会話や聞き取りにより出来るだけ把握出来るよう努めている。	日常の会話の中から得られた利用者の意向や要望は、職員会議で報告され、早急に対応が必要な場合は、職員が対応している。家に帰りたい、墓参りに行きたいなどの要望に関しては、家族に報告し対応してもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接時や契約時、又は入居後に本人や家族からしっかりと聞き取り（アセスメント）を行い、ケアプランに反映するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントや日々の生活の中で、現状を把握するように努めている。アクティビティも、本人の状況に合ったことを提案し、実行して頂き、記録に残している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>担当者会議での家族の要望や、担当職員の意見（出席できない場合は文章で）、又職員会議での他の職員からの意見を基に介護計画を作成するようにしている。</p>	<p>モニタリングは毎月、計画作成者が行なっている。ケアカンファレンスの際には、利用者の担当者の意見書、および職員会議や申し送りで出された職員の意見を参考にして、家族と話し合いプランの見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、個別の介護記録にその日の状況を記入し、又勤務帯毎に申し送りを行情報の共有に努めている。職員から介護計画の見直しの提案があれば、参加できる職員で協議している。その結果は文書にて、全員で把握し共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>出来る範囲のニーズに対応している。受診対応は原則町内としているが、家族が希望されれば、旧市内でも対応している。その場合職員配置を増やすなどの対応も行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアによる、玄関の生け花を見て喜ばれたり、地元老人会等のボランティア訪問により、日常ではない関わりを持っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>原則2週間に一度、主治医の往診があるが、その他にも主治医の指示や本人や家族の希望又は管理者が必要と判断した場合は、受診の支援を行っている。</p>	<p>利用者、家族の要望で、かかりつけ医を決めている。なお、体調不良時は、其々の医師に連絡し、対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	かかりつけ医院の看護師とは、何かあれば直ぐに電話連絡するか訪院して、情報提供を行い、受診や他の医療機関の受診の助言・指示を貰いながら利用者の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者が同行して情報提供を行っている。又退院時にも、状況把握のため訪院して、担当看護師や医療ソーシャルワーカーから情報提供をもらっている。そのためにも医療ソーシャルワーカー等との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合も、医療行為が伴わない限り対応はしているが、終末期の対応は、看護職員もいないことから困難である。	重度化した際には、医師の判断により方針を決定しており、医療行為が必要でない場合には、ホームで対応している。しかし、今のところホームに看護師がいないので、看取りは行なっておらず、関係機関と相談し、医療機関への転院を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のバイタルチェックや意識レベルの確認、顔色、表情の確認など、行うべきことを管理者が指示し、現在は実践できている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に火災、避難訓練を行い、利用者の人命第一との方法を職員全員に徹底している。常会の方には常に協力をお願いし、地元の方面隊にも訓練に参加頂いて、避難経路の確認をして頂いている。	年に2回の避難訓練では、夜間を想定した訓練を行っており、その内1回は、消防署が立会い助言を行なっている。避難訓練の際には、地域住民への電話による応援依頼も実施し、地域の消防団も参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩としての対応を心掛けるように気をつけているが、雰囲気によっては敬語ではなく、親しみやすい言葉で話すこともある。	利用者は、人生の先輩として尊重し、言葉かけは丁寧語を使い、命令口調にならないように、職員を指導している。また、居室に入室する際には声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声かけして本人の思いや希望を聴きだすようにしているが、なかなか自己決定は難しいこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	往診や日課の体操など、決まったこと以外は出来るだけ自由に過ごして頂くよう支援している。居室でテレビを観たり、横になったりされている。一日に何度も自由に、居室とリビングの往復をされる方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で衣服が選べる人は、自分でダンスから出して着ていただいている。着る順番が違っていたりしたら介助している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者とのティータイムの会話の中で食材のカタログなどを見ながら、何が食べたいか希望を聞いて、メニューに取り入れている。又誕生日には、事前に希望を聞いて提供している。朝食食後の食器拭きや、お絞りの準備をして頂いている。	利用者の要望を聞き、出来るだけ季節の食材を利用した献立を作成している。誕生日には、利用者の希望する食事を献立に組み込み、提供している。食器拭き、おしぼりの準備は、利用者が行なっている。年に数回は、外食をして楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	利用者ごとに食事は加減しており，又お粥、ミキサー食、トロミをつけるなど、その人の状態に応じた食事形態のものを提供している。水分量も摂取量を記録し、こまめに摂るよう支援している。水分制限のある人にも過多にならないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後必ず居室に誘導して、自立の方は声かけ、介助のいる方はその方に適した介助方法で支援している。義歯の方は、毎晩洗浄液に浸けている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員会議などでの話し合い、又担当職員からの起案により、出来るだけオムツにならないように実践している。尿意はなくても、立ち上がりが何とか出来る人は、排泄記録により排泄パターンを把握して、定期的にトイレに誘導している。状態によっては、二人で介助行いトイレでの排泄を促している。	排泄に関して、利用者の様子をよく観察し、職員会議で意見交換をして、出来るだけオムツを使用しないよう取り組んでいる。病院からの退院後、紙パンツから布パンツに改善された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便表を記録している。排便のないときは、腹部マッサージも行うが、3日毎に排便あるようコントロール行っている。また水分摂取に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	2回/1週は入浴して頂くようにしているが、その日の体調を考慮して、次の日にするなど柔軟に対応している。又、週に3回の入浴を希望される方にも対応している。	週に2回の入浴を原則としているが、利用者の要望により、回数を増やすこともある。冬至のゆず湯などで、季節を感じてもらおう工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>希望者には、午睡をしていただいている。又就寝時には、冬季であれば事前に電気毛布やエアコンなどのスイッチを入れて、暖かくして気持ちよく入眠出来るよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個人の介護記録に薬情報を綴っており職員がいつでも見れるようにしている。又、往診、受診時の医師の指示等も申し送りノートで、職員全員が情報を共有しており、何か変化があれば、直ぐに管理者に報告し指示を仰いでいる。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>毎日、洗濯物を干す、畳む、食器を拭くなど、利用者に出来ることをさせていただいており、「助かりました」「有難うございます」等と言うと「役に立ってうれしい。又言っして下さい」と言われたり、毎日の散歩などで、張り合いや楽しみを感じていただいていると思う。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>散歩や施設周りの外出は希望に添って対応している。隣にある中学校の運動会や、文化祭の神楽の発表会も希望されれば支援している。又年に数回、花見、外食、紅葉狩りには全員で外出している。</p>	<p>天気の良い日には、ホームの周りを散歩するようにし、車椅子の方も散歩の機会を出来るだけ設けるようにしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>認知症の施設ということで、利用者さんにお金を所持して頂くことは困難であり、家族と相談の上利用者さんには、管理して頂いていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在は、利用者さんからの希望による電話の訴えはないため、支援を行ってはいないが、宅急便などが来た時は、職員が相手に電話し、本人と話して頂くよう支援行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングやトイレ等の共有部分、及び各居室は毎日清掃を行っている。又リビングには雛飾りや鯉のぼりを飾ったり、散歩の途中で取った花を飾って季節感を取り入れている。玄関ホールには、ボランティアさんによる季節の生け花がある。	ホームの中を常に清潔に保つように心がけ、毎日、職員が分担し、ホーム内をくまなく掃除している。玄関にはボランティアによる季節の花が生けられ、桜の季節には利用者に楽しんでもらうようにと、近隣の住民からの桜の花の差し入れがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	全員で同じテーブルで話をしたり、歌を歌って過ごしたり、テレビを観たい人はソファで観るなど、自由に過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	備え付けの整理タンスとベッド以外は、自宅で使用していたものを持ってきていただいている。家族の写真や手紙、自分で製作したちぎり絵を飾っている方もおり、居心地よい環境作りに努めている。	利用者と家族が相談し、居心地よく生活できるように、室内を整えている。中には、自分で製作したちぎり絵を飾ったり、家族の写真を飾っている方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やトイレの場所が分かりやすいように、名前やマークを貼り付けている。又夜間トイレの場所が理解出来ない人が、自力でトイレに行けるようドアを開放して自立を促している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームさくぎ

作成日 平成27年6月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員に理念の理解・共有並びに実践が十分に出来ていない。	職員全員が理念及び理念の基となった活動信条を理解・共有し日々実践することを目指す。	職員全員で年に3回（7月、11月、3月）職員会議時に理念及び活動信条の勉強会を行なう。	12か月
2	6	身体拘束に関する研修が不十分である。	身体拘束しないケアの理解、及び実践を目指す。	身体拘束に関するマニュアルを基に職員会議時に研修会を行い具体的に身体拘束を行わないケアを理解する。	12か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。